



Vol 188 リスク分散はお済みですか？ 改めて確認したい、債券の魅力

新NISAの開始と共に新たに資産運用を始めた方の中には、当時の相場の勢いもあって、株式に多くの資金を投入していた方も多いかもかもしれません。しかし8月の株価急落で投資へのモチベーションが下がってしまった...という方もいるのではないのでしょうか。

でも、ここで焦りは禁物です。資産運用は長く続けてこそ実を結ぶもの。長期的なリターンの安定化やリスクの低減のためには、やはり分散投資が必要不可欠です。今回は、株式の「分散相手」として好相性な債券の魅力についてお伝えしたいと思います。



株式と債券、それぞれの値動きの特徴とは

株式は資産運用のエンジン役。お金を大きく増やすには不可欠なものですが、その分日々の値動きも大きくリスクが高いのが特徴です。一方、今回のテーマの債券は資産運用のクッション役。満期までの間に債券価格が下落することもあります。株式に比べて、比較的値動きが緩やかなのが特徴です。

そして何より、株式と債券は一般的に逆の値動きをする傾向にあり、併せて持つことでお互いのマイナスをカバーし合うことが期待できます。

■ 株式・債券と景気との関係性

	株式	債券
景気が良くなると	企業業績は改善する傾向 ↑ 価格は上がる傾向	金利は上がる傾向 ↓ 価格は下がる傾向
景気が悪くなると	企業業績は悪化する傾向 ↓ 価格は下がる傾向	金利は下がる傾向 ↑ 価格は上がる傾向

※価格変動などに関する説明は一般論であり、実際はこれと異なる値動きをする場合があります。

株式は景気が上向き、企業業績が改善する局面で価格が上昇し、景気後退時には企業業績の悪化に伴い価格が下落する傾向にあります。一方、債券は景気が上向いて市場金利が上昇すると、債券価格は下落し、逆に景気後退時には市場金利の低下に伴い価格が上昇する傾向にあります。

ではなぜこのように債券は金利と逆の動きをするのでしょうか。次ページで見ましょう。

債券価格と金利の関係

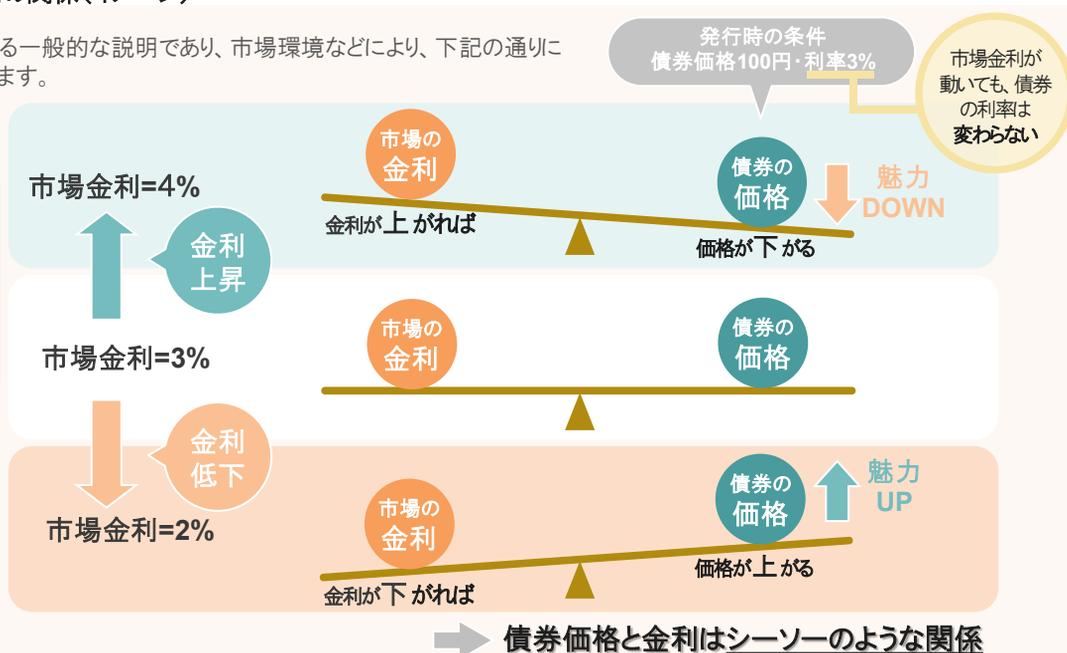
市場金利は景気などの影響を受けて動きますが、すでに市場で取引されている債券の利率（額面に対する年利息の割合）は変わりません。そのため、金利が上がれば当該債券の投資魅力は下がり、逆に金利が下がれば魅力が上がる「シーソーのような関係」になります。

■ 債券価格と金利の関係(イメージ)

※利付債券に関する一般的な説明であり、市場環境などにより、下記の通りにならない場合もあります。

債券価格と金利の関係は右記の通りですが、金利変化の影響が全ての債券に一律ではないことには注意が必要です。

※P3「ご参考」参照



債券価格だけじゃない。債券投資に期待すること

このように景気が悪くなると強みを発揮する債券ですが、債券の魅力はそれだけではありません。債券は発行体が期限を決めて債権者からお金を借りている「借用証書」のようなもの。債券を発行する際にあらかじめ定められた、安定的な利息(クーポン)収入が得られることがまず第一のメリットですし、さらに債券の発行体がデフォルト(債務不履行)とならない限り元本が保全されるという面も魅力的です。



利息(クーポン)収入

あらかじめ決まった利息(クーポン)が定期的に受け取れる。



元本の保全性

債務不履行(デフォルト)しない限り、元本または額面金額を受け取れる*。



債券価格の上昇(値上がり益)

金利低下時に債券価格が上昇。金利上昇時には逆の動きに。



他資産と異なる値動き

株式やREITより値動きが小さく異なる傾向があり、分散効果が期待できる。

*額面金額で受け取れるのは満期償還まで保有した場合。

※上記は債券の一般的な特徴であり、市場環境などによっては上記のようにならない場合があります。

分散投資に債券の活用を

景気動向次第で市場が不安定な局面になる可能性があることは、皆さんもご経験されたばかりかと思います。株式のみで運用するのではなく、投資対象に債券も加えることで、ご自身のポートフォリオのリスクを抑え、リターンを安定させることが期待できます。投資信託を活用すれば、さまざまな債券に、少額から投資することが可能ですので、ぜひ分散投資にお役立てください。



ご参考

P2「債券価格と金利の関係(イメージ)」の理解を深めるために、ぜひご覧ください。

金利と「デュレーション」から分かること

金利変化の影響は、満期までの期間が長い債券ほど大きくなる傾向があります。「市場金利が動いたときにどれだけ債券価格が変動するのか」を見るための指標をデュレーションといいます。残存期間(債券の満期までの期間)と非常に似ているものですが、デュレーションは残存期間に加え、受け取る利息(クーポン)も考慮して計算され、残存期間と同じように年単位で表します。デュレーションは、「金利が1%動くと債券価格がどのくらい動くか」を示す指標であり、デュレーションが長いほど、金利変動時の価格変動は大きくなります。

■金利が1%上下した時の債券価格の動き



※横軸はデュレーション

※債券価格は金利以外の要因でも変動するため、上記の通りにならない場合があります。



nikko am

コールセンター

0120-25-1404

営業時間 平日 9:00~17:00

日興アセットマネジメント